第 21 期（平成 28 年 3 月期）事業報告書

平成 27 年 4 月 1 日より平成 28 年 3 月 31 日まで

Ⅰ　公益目的事業１

環境の保全に配慮した繊維製品の再生利用等を通じて、環境への負荷ができる限り低減される生活文化の創造に寄与する事業

１．環境保全に配慮したユニフォームのリサイクルシステム提供事業（リサイクルマーク事業）

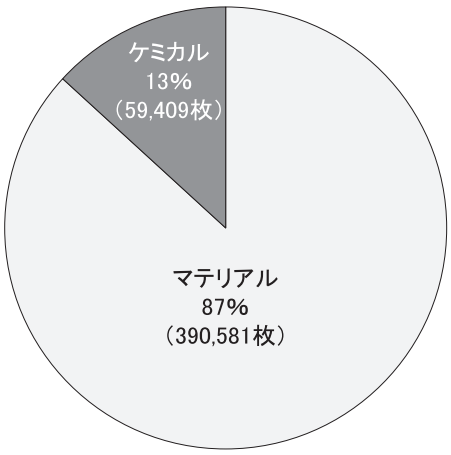
（１）リサイクルマークの交付

平成 27 年度に交付したリサイクルマークは、下記のとおりである。

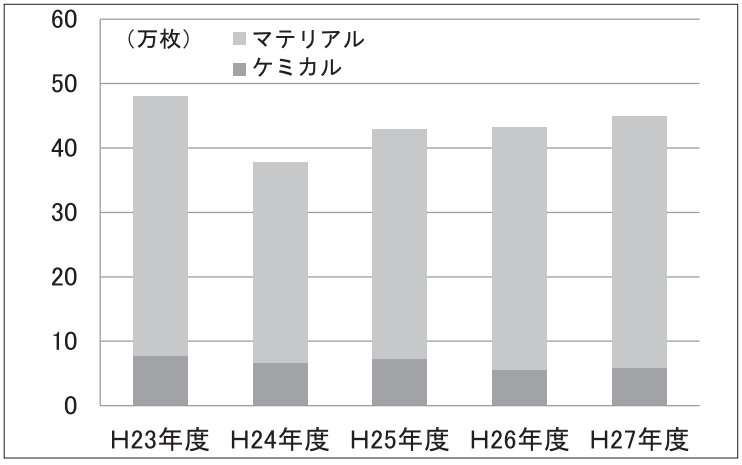
マーク種別	枚数	件数
マテリアルリサイクルマーク	390,581 枚	426 件
ケミカルリサイクルマーク	59,409 枚	335 件
合　　計	**449,990 枚**	**761 件**

平成 27 年度交付実績

リサイクルマーク
（上：マテリアル　下：ケミカル）



平成 27 年度交付内訳



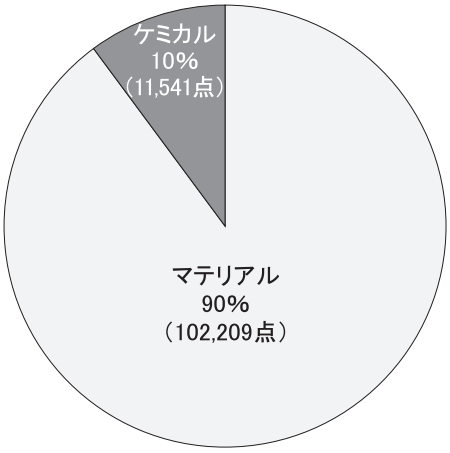
過去５年間の交付推移

（２）使用済みユニフォームの回収

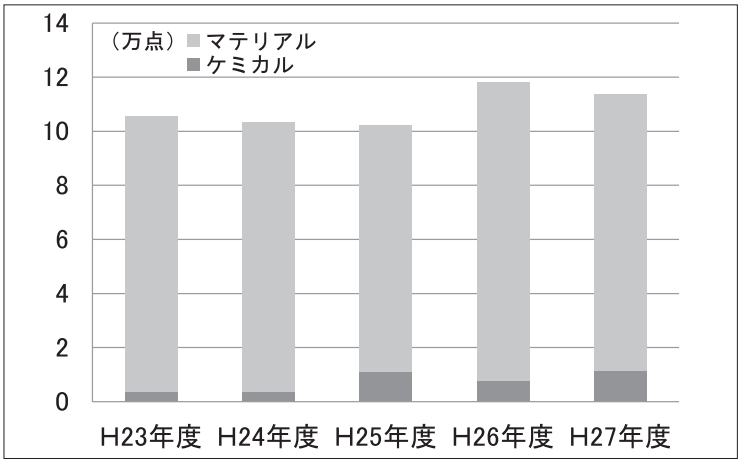
平成 27 年度に回収した使用済みユニフォームは、下記のとおりである。

縫着マーク種別	点数	件数
マテリアルリサイクルマーク	102,209 点	279 件
ケミカルリサイクルマーク	11,541 点	11 件
合　　計	**113,750 点**	**290 件**

平成 27 年度回収実績



平成 27 年度回収内訳



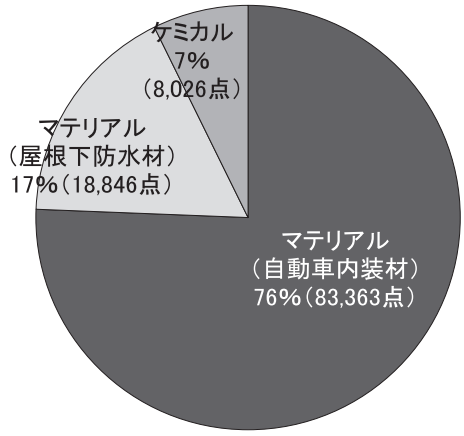
過去 5 年間の回収推移

（３）使用済みユニフォームのリサイクル処理

平成27年度にリサイクル処理した使用済みユニフォームは、次のとおりである。

処理方法種別	点数	重量
マテリアル（自動車内装材）	83,363 点	45.7960t
マテリアル（屋根下防水材）	18,846 点	6.9525t
ケミカル（ナイロン６原料）	8,026 点	3.9779t
合　　計	**110,235 点**	**56.7264t**

平成 27 年度リサイクル処理実績



平成 27 年度リサイクル処理内訳

（４）リサイクルマーク事業管理委員会の開催

本委員会は、リサイクルマーク事業における重要事項の協議やトラブル時の対応を行っている。平成 27 年度は、下記のとおり開催した。

日程：平成 27 年 6 月 2 日（火）　　場所：航空会館（東京都港区）

内容：平成 26 年度広域認定報告書の承認、平成 26 年度広域認定変更状況の報告

（５）リサイクルマーク事業管理業務の実施

◆ 広域認定処理状況の報告

本機構が取得している環境省広域認定の報告義務に基づき、平成 27 年 6 月、平成 26 年度マテリアルリサイクル処理状況について、右のとおり環境省へ報告した。

※ケミカルリサイクルは東レ㈱が広域認定取得

報告内容	数量
再生品の量	56.5241t
再生処理に伴い生ずる廃棄物の量	0.4069t
総重量(使用済みユニフォームの量)	**56.9310t**

平成 26 年度リサイクル処理実績

◆ リサイクル処理に関する証明書の発行

将来におけるリサイクル処理を証明する「リサイクル処理事前証明書」、すでに実施

したリサイクル処理を証明する「リサイクル処理事後証明書」を会員からの申請により発行している。平成 27 年度は事後証明書を 35 件発行した。

◆ 会員への回収・リサイクル処理状況の報告

平成 27 年 5 月、平成 26 年度中に回収した使用済みユニフォーム 118,245 点及びリサイクル処理を行った使用済みユニフォーム 122,091 点について対象会員に報告するべく、「使用済みユニフォーム回収・リサイクル処理終了報告書」を送付した。

◆ 未回収ユニフォームの回収促進

平成 27 年 5 月、会員が提出したリサイクルマーク交付申請書の情報に基づき、平成 26年度中に回収予定日が到来した未回収ユニフォーム 366,307 点について対象法人会員へ通知するべく、「着用終了予定日経過通知書」を送付し、未回収ユニフォームの回収促進を図った。

◆ 職員の講習受講

ユニフォームリサイクルシステムの適正かつ適法な運営を図るため、事業担当職員が産業廃棄物又は特別管理産業廃棄物処理業の許可申請に関する講習会を受講した。

２．環境保全に配慮した生活文化に関する調査研究事業

（１）里山を通じた循環型地域づくりのための次世代（ユース）育成・交流促進事業

本事業は、将来の循環型地域づくりの中心的役割を担う次世代の育成を目的に、平成 29年度までの 3 ヵ年計画として、東京都八王子市の里山「高尾 100 年の森」で里山体験プログラムを実施するものである。

平成 27 年度は、小学生等の低年齢ユースを対象に、火の扱い方、危険性、始末の仕方などを学ぶたき火体験と、身近な体験とつながりやすいよう食をメインテーマにした里山体験プログラム「高尾 100 年の森 たき火クラブ」を実施した。

また、平成 24 年度から当地において実施してきた取り組みにより育成された地域リーダーやノウハウ等を活用し、そのスキルアップを図った。

なお、本事業は平成 27 年度地球環境基金助成活動として実施した。

※地球環境基金：独立行政法人環境再生保全機構が設置する国と民間の双方からの資金拠出に基づいた基金。その運用益等を以って内外の民間団体（NPO・NGO）による環境保全活動への助成その他の支援を行う。

◆ 里山体験プログラムの実施

森歩きや生き物探しなどを通して自然の魅力や生物多様性を感じ、また、たき火体験、それにより熾した火により糧を得るという一連の流れから人の営みを体験できるよう、プログラムを実施した。さらに、参加した子どもは、植物や生き物の変化、調理への旬の地元食材の使用、クリスマスにちなんだ料理などにより、四季の変化を感じる感性が育まれた。

▶ 高尾 100 年の森 たき火クラブ

日程：平成 27 年 11 月 21 日（土）　　参加者：13 人（子ども 6 人　大人 7 人）

内容：たき火体験、Ｍｙ箸づくり、焼き芋、マシュマロ焼き、バードコール作り

▶ 高尾 100 年の森 たき火クラブ「たき火をしよう！＋ダッチオーブンでクリスマス」

日程：平成 27 年 12 月 20 日（日）　　参加者：22 人（子ども 9 人　大人 13 人）

内容：たき火体験、ダッチオーブンでのチキン料理、マシュマロ焼き

▶ 高尾 100 年の森 たき火クラブ

「たき火をしよう！＋白菜１個を食べつくす おいしいピエンロー」

日程：平成 28 年 2 月 28 日（日）　　参加者：20 人（子ども 10 人　大人 10 人）

内容：たき火体験、森の散策、野鳥観察、ピエンロー料理、マシュマロ焼き

◆ 東京・福島の子どもたちの地域間交流会「高尾の里山で会いましょう」

福島県郡山市からユースを招き、東京のユースとの里山プログラムを通じた地域間交

流会を実施した。

日　程：平成 27 年 10 月 3 日（土）～4 日（日）

参加者：19 名（福島県郡山市の小学生 8 名　東京都の小学生 11 名）

内　容：《1 日目》高尾山散策（郡山市の子どもたちのみ）

《2 日目》「高尾 100 年の森」の解説、たき火体験、森の散策、間伐材でのＭｙ箸作り、大学生スタッフ解説「ライフラインが止まったら？～里山には命を守る資源と知恵がある」

◆ 世代間交流会

牧場主や猟師の方を講師に招き、世代間交流会を実施した。目の前で直接講師から知識や経験を伺うことで、生き物を育て、生き物から糧を得るという一連の流れを実際に体験でき、人の営みについて考えることのできるプログラムとなった。

▸ 高尾 100 年の森 たき火クラブ

「八王子の牧場を訪ねよう＋森あそび ぐりとぐらのジャンボホットケーキづくり」

日　程：平成 28 年 3 月 20 日（日）

場　所：磯沼ミルクファーム・高尾 100 年の森（東京都八王子市）

講　師：磯沼ミルクファーム 代表 磯沼 正徳氏

参加者：26 人（子ども 13 人　大人 13 人）

内　容：牧場体験、たき火体験、磯沼ミルクファームの牛乳を使ったホットケーキづくり、川遊び

▸ 高尾 100 年の森 たき火クラブ「森の動物と仲よくなろう」

日　程：平成 28 年 3 月 28 日（土）

講　師：森のたね 代表 井戸 直樹氏

参加者：5 人（子ども 3 人　大人 2 人）

内　容：生き物の痕跡探し、獣道あるき、狩猟罠の実演、レザークラフト、地元食材鍋、マシュマロ焼き

◆ 対象地域活性化に向けた佐川急便株式会社との連携強化

平成 24 年度から地球環境基金助成活動を実施している東京都八王子市高尾地域「高尾 100 年の森」の地権者である佐川急便株式会社と、現地の活性化、一般周知を目指し、中期ビジョンを作成し、ソフト面・ハード面の両面から対象地域を発展させるため連携を深めた。

また、平成 28 年 3 月、本活動地域は東京都八王子市から「体験の機会の場」に認定され、今後環境教育の場としてのさらなる活用・発展が期待される。

（２）八王子市高尾周辺地域住民による循環型地域づくりのための人材育成事業

平成 24～26 年度実施の本事業において作成したＥＳＤ環境教育プログラム「間伐材を活用して『Ｍｙ箸』を作ろう」が、環境省「持続可能な地域づくりを担う人材育成事業に係るＥＳＤの視点を取り入れた環境教育プログラム」に採択され、平成 27 年 7 月刊行の環境省「ＥＳＤ環境教育モデルプログラムガイドブック③」に収録された。

（３）東京オリンピック・パラリンピックを契機とした環境おもてなしプロジェクト「環境おもてなし企業活動誓約事業」

本機構は、2020 年東京オリンピック・パラリンピック開催を機とした取り組みを実施すべく、平成 26 年度から役員、会員、環境省オブザーバーを交えた勉強会を実施してきた。そこでまとめた結果を踏まえ、平成 27 年 6 月、理事会にて東京オリンピック・パラリンピックを契機とした環境おもてなしプロジェクト「環境おもてなし企業活動誓約事業」の実施を決定した。

【目的・概要】

本事業は、「環境都市づくり」を目指した首都圏における企業の環境に配慮した活動を全国に向けて発信することを目的とし、さらには、企業におけるＣＳＲ・環境意識を向上し、さらに各企業がオリンピック・パラリンピック終了後も継続して実行できる社会的仕組みの確立を目指すものである。

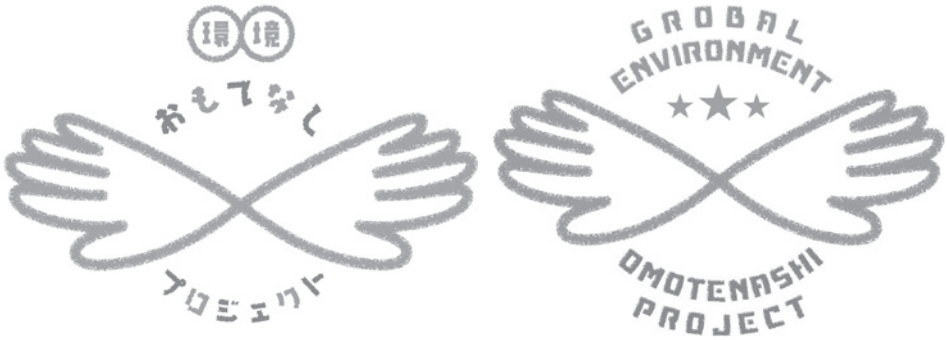
実施期間は、平成 28 年度末までの 2 年間とし、広く企業・事業者を対象に、持続可能な社会づくりに資する環境に配慮した活動を実施する誓約を募集する。本事業に参加する誓約企業に、各企業の誓約内容に沿った活動を継続的に実施していただき、事業終了後、その取り組みの成果をまとめ広く周知する。

◆ 誓約委員会設置

平成 27 年 6 月 24 日、有識者 5 名からなる「環境おもてなし企業活動誓約委員会」を設置した。委員会は、企業から提出される誓約の受領及び参加の可否、誓約企業に対する誓約内容への助言、提案等を行う。

◆ ロゴマーク決定

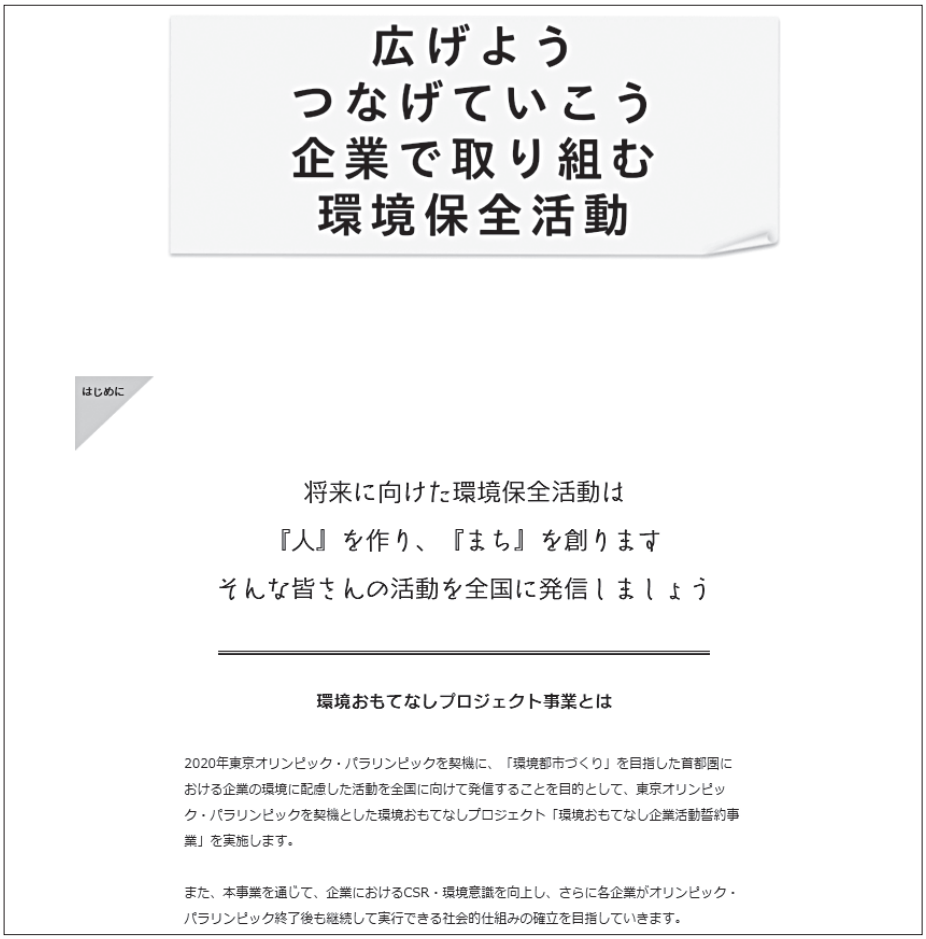
本事業の普及のため、日本語版・英語版ロゴマーク及びロゴマーク使用規則を決定した。



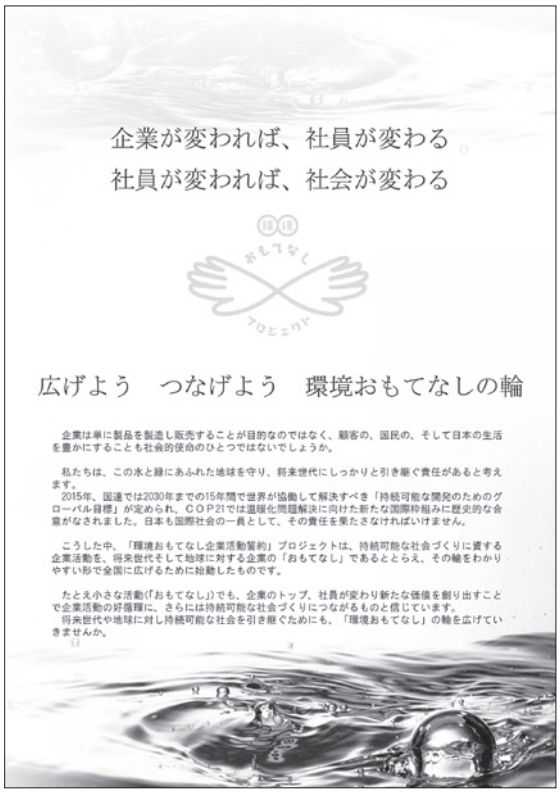
ロゴマーク（左：日本語版　右：英語版）

◆ 誓約募集

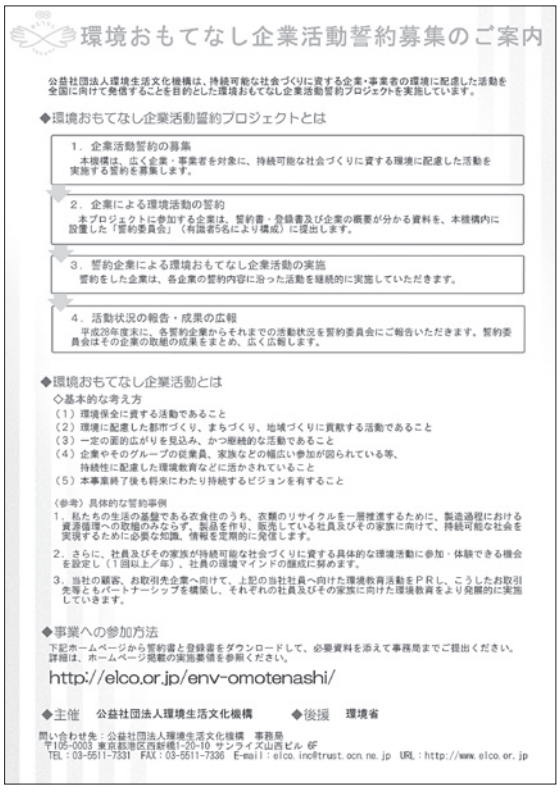
事業実施決定とともに、会員へ環境おもてなし企業活動誓約の募集を呼びかけるとともに、専用ホームページやチラシを製作し、環境省後援のもと、平成 27 年 10 月 26 日、一般への誓約募集を開始した。



広報用専用ホームページ



（表）



（裏）

広報用チラシ

（４）南九州における 900ml 茶びんのリユースシステム事業フォローアップ

環境省の循環型社会実証事業（※）として、本機構が新規に企画・製造し、市場に出荷された 900ml（茶）統一規格びんは、主として焼酎の充てんに使用されている。この 900ml（茶）統一規格びんは、対象地域である南九州を中心に、現在も順調に出荷本数・回収本数を伸ばしており、平成 27 年度の出荷・回収実績は、下記のとおりである。

	全　国	九州内のみ	平成 16～27 年度総数
出荷本数	1,172,028 本	675,370 本	18,516,108 本
回収本数	570,078 本	505,782 本	7,405,031 本
回収率	**48.6%**	**74.9%**	**40.0%**

平成27年度リユースびん出荷・回収実績

※事業名：平成15・16年度循環型社会形成実証事業「南九州における900ml茶びんの統一リユースシステムモデル事業」／平成17年度フォローアップ事業

３．循環型社会形成推進功労者表彰事業

（１）平成 27 年度循環型社会形成推進功労者表彰

平成 27 年 4 月 1 日～5 月 29 日、自薦他薦を問わず受賞候補者を一般公募し、平成 27 年 6 月 19 日、審査委員会での審査の結果、受賞候補者 3 者が選出された。これを受け、平成 27 年 6 月 24 日の理事会において、平成 27 年度受賞者を「鹿島建設株式会社」「ファイバーリサイクルネットワーク」「株式会社ベネフレックス」の 3 者に決定した。

◆ 平成 27 年度受賞者

【鹿島建設株式会社】

“100年をつくる会社”として、自らの事業活動における環境負荷軽減とともに、提供する社会基盤の環境共生化を図る大手総合建設会社。ISO14001を取得し、低炭素・資源循環・自然共生の 3 つの社会の実現を目指す独自の「鹿島環境ビジョン:トリプルZero2050」を掲げ、施工 CO_2 排出量原単位削減、ゼロエミッションの達成、再生資源利用率の向上、生物多様性創出プロジェクトの推進、ゼロ・エネルギー・ビルの実現に向けた技術開発など多様な活動を展開している。さらに、ゼロエミッション活動の一環として、同社の制服に本機構のユニフォームリサイクルシステムを活用した使用済みユニフォームの回収・再生利用に積極的に協力している。

【ファイバーリサイクルネットワーク（ＦＲＮ）】

古布・古着、きものなどの繊維リサイクルを推進する市民団体。行政に先じて市民・故繊維業者の二者合意のネットワークを立ち上げ、神奈川県横浜市、川崎市、茅ケ崎市などを中心に古布・古着回収活動を 23 年間にわたり実施してきた。また、日本の着物文化見直しと再活用の提案の場として、和服類や和布リメイク品などを販売する「リサイクルきものフェア」を43回開催してきた。それらの活動収益の一部を FRN 基金とし、毎年 NGO 団体等に支援、また緊急災害時の義援金等、これまで約 1,182 万円を支援している。

【株式会社ベネフレックス】

企業と地域社会、消費者との相互信頼のもとに地域社会の環境保全を図りながらCSR活動に尽力している自動販売機サービス・フードサービス事業者。グループ製品である飲料の使用済み飲料空容器のリサイクルを推進し、省エネ対策など環境負荷低減活動を行い、同社の制服に再生 PET 素材の活用を推進し、本機構のユニフォームリサイクルシステムを活用した使用済みユニフォームの回収・再生利用に積極的に協力している。さらに、植林活動や社員美化奉仕活動を継続的に実施し、全社員に対する環境教育、社内広報活動による環境方針の理解と意識向上を図っている。

◆ 表彰式

平成 27 年 9 月 2 日、ＫＫＲホテル東京（東京都千代田区）にて表彰式を開催した。

はじめに来賓としてご出席いただいた環境省大臣官房廃棄物・リサイクル対策部長 鎌形 浩史氏よりご挨拶をいただいた。

続いて広中会長より受賞者に表彰状が授与された。その後、受賞者の鹿島建設株式会社 安全環境部 企画・監査グループ長 都築 辰夫氏、ファイバーリサイクルネットワーク 代表 赤岡 清子氏、そして株式会社ベネフレックス 営業本部 取締役本部長 南田富夫氏から謝辞をいただき、記念撮影の後、懇親会を行った。

鹿島建設㈱ 都築企画・監査グループ長への表彰状授与

ファイバーリサイクルネットワーク 赤岡代表への表彰状授与

㈱ベネフレックス 南田取締役本部長への表彰状授与

○ 前列左から 竹馬理事長、広中会長、南田取締役本部長(㈱ベネフレックス 営業本部)、赤岡代表(FRN)、都築企画・監査グループ長（鹿島建設㈱安全環境部)、鎌形部長（環境省大臣官房廃棄物・リサイクル対策部)、山本課長(環境省大臣官房廃棄物・リサイクル対策部 企画課)、奥富代表理事

○ 後列左から 長谷川監事、外川理事、志澤副代表(FRN)、黒柳会計監査(FRN)、服部顧問(FRN)、平野課長代理（鹿島建設㈱ 安全環境部 施工環境グループ)、寺田理事、木村監事、横山監事

環境生活文化機構

繊維リサイクル功労者表彰

鹿島建設など3社に

環境生活文化機構は2日、「平成27（2015）年度循環型社会形成推進功労者表彰式」を都内で開催した。繊維リサイクルを通じて循環型社会に関する3R（リデュース、リユース、リサイクル）活動に積極的に参加している企業や団体、個人を称える賞で、今年度は建設大手の鹿島建設、市民団体ファイバーリサイクルネットワーク、自動販売機サービスのベネフレックス（富山県高岡市）に贈られた。

鹿島建設は環境マネジメントシステム「ISO14001」を取得するとともに、低炭素・資源循環・自然共生の視点から環境負荷ゼロを目指す「鹿島環境ビジョン：トリプルゼロ2050」を策定し様々な活動を展開中。ゼロエミッション活動の一環として同機構のユニフォームリサイクルシステムを活用している。

ファイバーリサイクルネットワークは神奈川県横浜市、川崎市、茅ケ崎市などを中心に古布、古着回収を23年実施。着物文化の見直しと再活用の提案の場として和服類や和布リメーク品などを販売する「リサイクルきものフェア」をこれまで43回開催しており、これらの活動収益は「FRN基金」として国内・海外のボランティア活動を行っている団体や国内外で起きた大きな災害に対し、支援金や義援金として寄付。これまでの累計額は1182万円にものぼる。

北陸地方を中心に自動販売機サービスや飲食店などの事業を展開する株式会社ベネフレックスは、親会社の北陸コカ・コーラボトリング（株）とともに、コカ・コーラシステムの一翼として、環境保全などCSR活動に尽力。使用済み空容器のリサイクルを推進し、省エネ対策など環境負荷低減活動を行っている。また、同社の制服に再生PET素材を活用、同機構のユニフォームリサイクルシステムを活用した使用済み制服の回収・再生利用に積極的に貢献したことなどが評価された。

FRNの赤岡清子代表は受賞に際し、「今回の受賞は、私たちが目指す『布の循環』と、布を介して繋がった人々との関わりを、大切に活動を続けていきたいという気持ちへの応援として捉えており、とても嬉しく思う。この賞を励みにこれからも活動を繋ぎ続けていきたい」とコメントしている。

広中和歌子会長（前列左から2人目）と記念撮影する受賞者

受賞したFRNの赤岡清子代表（左）と環境生活文化機構の広中和歌子会長（右）

繊維ニュース（平成27年9月4日）　資源新報（平成27年9月8日）

（2）「持続可能な社会づくり活動表彰」実施準備

循環型社会形成推進功労者表彰を実施して3年が経過したが、本表彰の一般認知度はいまだ十分とはいえない。そこで、表彰名の変更をはじめ、環境大臣賞の設置、対象範囲の拡充など、さらなる公益性の確保と魅力度の向上を目的に、本機構表彰事業の充実を図ることとし、新規表彰制度「持続可能な社会づくり活動表彰」の実施準備を進めた。

平成27年9月2日、理事会及び臨時社員総会にて新規表彰事業実施、それに伴う定款改正を承認した。その後、平成27年12月25日、内閣府より公益目的事業の変更が認定され、同日付で改正定款が施行された。

４．講演会・研修会・シンポジウム等開催事業

第 19 回環境文化講演会

毎年 6 月に環境月間実施行事として、環境保全に関する生活文化および社会経済システムに関する知識の普及啓発を目的に、地球環境や循環型社会に関する幅広いテーマについて、高度の学識と豊富な経験を持つ有識者を招き、環境文化講演会を開催している。

平成 27 年度は下記のとおり開催し、当日は一般市民を含め約 50 名の参加があった。

日程：平成 27 年 6 月 24 日（水）　　場所：航空会館（東京都港区）

プログラム

《第一部》環境配慮繊維素材事例紹介

植物由来ポリエステル「エコディア」

東レ株式会社 繊維ＧＲ・ＬＩ推進室室長 佐々木 康次氏

環境配慮型分解ポリエステル繊維「エコフェイス」

一村産業株式会社 エコフェイス事業部長 東 俊一氏

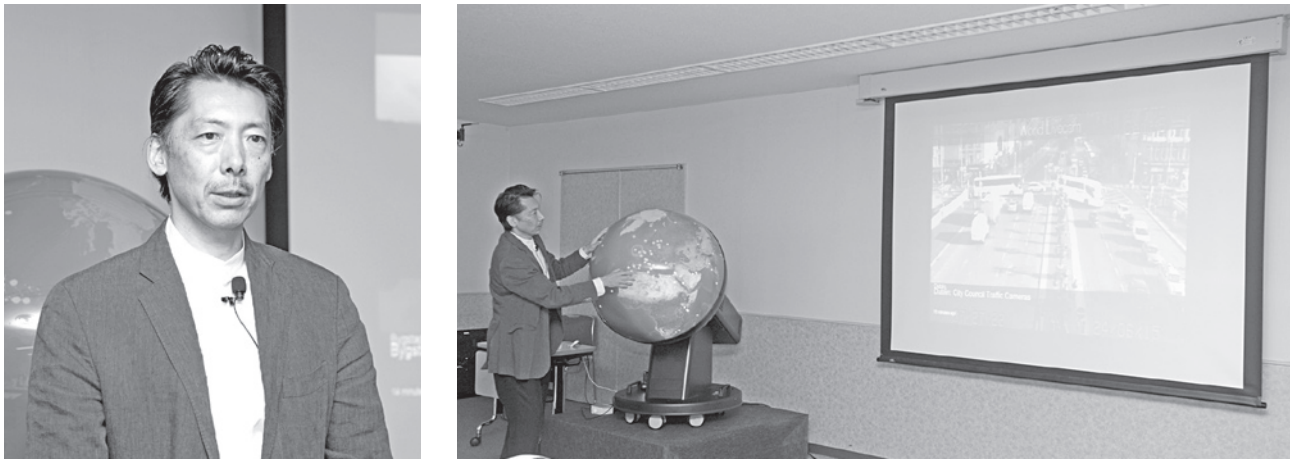
《第二部》基調講演

講師：京都造形芸術大学 教授 竹村 真一氏

演題：“地球目線”で持続可能な未来を考える～『触（さわ）れる地球』を使って～

基調講演では、竹村教授から、デジタル地球儀「触れる地球」を使うことで、国境や個々の地形という枠組みを越え、ひとつの星全体をよりリアルに可視化した“地球目線”で、地震活動や気象現象等についてお話しいただいた。さらに、深刻な温暖化が進む現状を踏まえ、インフラ整備、自然エネルギーの活用、新炭素技術等による私たちの今後の選択により未来を変えられる可能性を示唆し、デジタル地球儀によるＩＴ技術と科学データを駆使した魅力ある教育環境に向けた展望を語った。

第一部 環境配慮繊維素材事例を紹介する講師
（左：東レ㈱ 佐々木繊維GR・LI推進室室長　右：一村産業㈱ 東エコフェイス事業部長）



第二部 基調講演の様子（京都造形芸術大学 竹村教授）

案内チラシ

REPORT

特定堆肥中で分解可能なリサイクル繊維を紹介

第19回 環境文化講演会（(公社)環境生活文化機構）

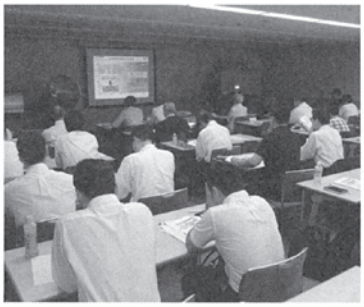
6月24日、(公社)環境生活文化機構が都内で開催した第19回環境文化講演会で、東レ㈱のグループ会社の繊維メーカーである一村産業㈱が、特定の堆肥中で分解される機能を持つリサイクル可能なポリエステル繊維「エコフェイス－ecoface」の事例を紹介した。

エコフェイスは、アメリカの化学会社「デュポン社」が開発した「環境配慮型ポリエステル樹脂 APEXA」を繊維化した素材。一般的なポリエステルとほぼ同様の機能や物性を持ちながら、特定条件の堆肥中で分解することができる。

現在国内の衣類リサイクル率は20％以下で、アルミ缶や古紙などと比べると低い傾向にある。衣類販売店での店頭回収を中心にリユースは活性化しつつあるが、それでも大半が焼却処理されている現状だ。その要因の一つが、リサイクルできない合成繊維衣類となっている。

こうした状況の改善を図るため、同社は、特定の条件を満たした堆肥中で分解できるエコフェイスを開発した。左半分が一般的なポリエステル、右半分がエコフェイスからできている衣類を特定の堆肥に埋めて比較したところ、ポリエステルはそのままの形状で残ったが、エコフェイス部分は粉末状にまで分解された。

現在、研究機関と連携して、エコフェイス製品を特定の堆肥中で分解した粉末を畜産現場の堆肥化副資材として再利用する実証実験に取り組んでいる。将来的には、使用後のエコフェイス製品の回収・分解システムを構築・運営していく。



第一部では、東レ㈱も事例を紹介した

「触れる地球」を活用し、竹材教授が講演

デジタル地球儀で地球の〝今〟を体感

講演会第二部では、京都造形芸術大学教授の竹村真一氏が、世界初のデジタル地球儀「触れる地球」を使って基調講演を行った。この地球儀は、ITを駆使した地球環境問題に取り組む氏が㈱JVCケンウッドなどと連携して企画・製作したもの。大気や海洋の変化、都市や交通といった人工活動にいたるまで、地球規模で現在の状態を表示できる。

竹村氏は、地球儀を用いながら、今地球環境にどういう変化が起こっているのかを解説。「環境問題のみならず、今私たちが見ている地球は一過性のもの。地球は常に動いていて、その変化を体感することが大切」と述べた。聴講者は「おー！」と、高度なIT技術に時折驚きの声を挙げつつ、竹村氏の講演に聞き入っていた。W

月刊廃棄物（平成27年8月号）

５．環境保全に配慮した生活文化に関する広報・普及啓発事業

（１）季刊誌「エルコレーダー」の発行

本機構の事業や環境保全に関する情報発信・情報交流によって循環型社会に対する多くの人々の関心を高めることを目的に、季刊誌「エルコレーダー」を４回発行した。

第 62 号（平成 27 年 4 月 1 日発行）

【巻頭】NPO 法人菜の花プロジェクトネットワーク
代表 藤井 絹子氏インタビュー
「菜の花が、地域と地球を救う
―琵琶湖再生運動から始まった、資源循環型地域プロジェクト―」

【特別連載】エシカル・プラネット1
「エシカル・ファッションが未来の扉を開く！」
ファッションジャーナリスト 生駒 芳子氏

【連載】
- ▶ 環境を見つめる人々45「“INALA” 平和な場所の番人たち」
  立教大学大学院 21 世紀デザイン研究科 教授 萩原 なつ子氏
- ▶ エコ＆ユニフォーム最前線 13「『光るユニフォーム』が来る！」
  ダイセン株式会社 記者 富永 周也氏

【会員紹介 ―エルコマインズ】
「制服は企業と社会を繋ぐメディア」株式会社カマタニ 代表取締役 鎌谷 正弘氏

【事務局だより】

第 63 号（平成 27 年 7 月 24 日発行）

【巻頭】第 19 回環境文化講演会 基調講演
「“地球目線”で持続可能な未来を考える―『触れる地球』を使って―」
京都造形芸術大学教授 竹村 真一氏

【特別連載】エシカル・プラネット 2
「ファッションで途上国支援する『フェアトレード』」
ファッションジャーナリスト 生駒 芳子氏

【連載】
- ▶ 環境を見つめる人々46「動物とヒトの対話」
  立教大学大学院 21 世紀社会デザイン研究科 教授 萩原 なつ子氏
- ▶ エコ＆ユニフォーム最前線 14「『優しい』だけでは続けられない」
  ダイセン株式会社 記者 富永 周也氏

【事務局報告】
「平成 26 年度リサイクルマーク事業ユニフォームリサイクルシステム実施状況」
「平成 24～26 年度地球環境基金助成活動八王子市高尾周辺地域住民による循環型地域づくりのための人材育成事業」

【事務局だより】

第 64 号（平成 27 年 10 月 1 日発行）

【巻頭】学校法人服部学園 服部栄養専門学校
理事長・校長 服部幸應氏 インタビュー「日本人の未来と『食育』」

【特別連載】エシカル・プラネット 3
「アップ・サイクリングで“おしゃれサステナブル”」
ファッションジャーナリスト 生駒 芳子氏

【事務局報告】「平成 27 年度循環型社会形成推進功労者表彰式」

【連載】
- 環境を見つめる人々 47「ヨシ・アシをみつめる」
  立教大学大学院 21 世紀社会デザイン研究科 教授 萩原 なつ子氏
- エコ＆ユニフォーム最前線 15「次世代へのメッセージ」
  ダイセン株式会社 記者 富永 周也氏

【会員紹介 ―エルコマインズ】
「『欲張らず、実直に、信頼繋ぐ』の姿勢で」ミスズユニム株式会社 専務取締役 今井 貴宏氏
【事務局だより】

第 65 号（平成 28 年 1 月 1 日発行）

【巻頭】新春対談 兵庫県知事 井戸 敏三氏・本機構 広中 和歌子会長
「日本の縮図・兵庫県が発信する先進モデル
―人と自然との共生が、新しい地域創生を生む―」

【特別連載】エシカル・プラネット 4
「エシカルの原点を、伝統工芸世界に見る」
ファッションジャーナリスト 生駒 芳子氏

【連載】
- 環境を見つめる人々 48「飛べない鳥の楽園」
  立教大学大学院 21 世紀社会デザイン研究科 教授 萩原 なつ子氏
- エコ＆ユニフォーム最前線 16「エコとユニフォームが進む道」
  ダイセン株式会社 記者 富永 周也氏

【会員紹介 ―エルコマインズ】
「『もったいない』活かし“潤感型”社会形成へ」株式会社トベ商事 代表取締役社長 戸部 昇氏

【事務局だより】

（２）ホームページ

本機構のホームページでは、情報公開・情報発信を目的に、機構情報や事業の紹介等を行っている。リサイクルマーク事業のページは、リサイクルシステムを利用する会員の利便性を考慮し、必要書類等のダウンロード機能を付加しているほか、調査研究事業の活動実施状況の公開、季刊誌「エルコレーダー」の掲載、循環型社会形成推進功労者表彰の募集・結果告知、環境文化講演会の参加申し込み受付等を行っている。

（３）広告の掲載

ダイセン株式会社の「ユニフォームプラス 6 月号（環境特集号）」（平成 27 年 6 月発

行)に、本機構のリサイクルマーク事業ユニフォームリサイクルシステムの紹介と第 19 回環境文化講演会案内の広告を掲載した。

ユニフォームプラス 6 月号への掲載広告

Ⅱ　組織運営

１．理事会・社員総会の開催

本機構の円滑な運営を図るため、平成 27 年度は下記のとおり理事会及び社員総会を開催した。

◆ 第１回理事会

日程：平成 27 年 6 月 2 日（火）　場所：航空会館（東京都港区）

内容：役員候補者の選定
　　第 20 期（平成 27 年 3 月期）事業報告及び決算報告の承認
　　環境おもてなしプロジェクト実施計画の決定
　　定時社員総会招集の決定等

◆ 第２回理事会

日程：平成 27 年 6 月 24 日（水）　場所：航空会館（東京都港区）

内容：新規入会会員の承認
　　平成 27 年度循環型社会形成推進功労者表彰受賞者の決定
　　環境おもてなし企業活動誓約事業実施要領、誓約委員会設置、ロゴマーク及び使用規則の決定
　　内閣府への事業報告等定期提出書類の承認
　　代表理事の職務執行状況報告等

◆ 定時社員総会

日程：平成 27 年 6 月 24 日（水）　場所：航空会館（東京都港区）

内容：第 20 期（平成 27 年 3 月期）事業報告及び決算報告の承認
　　役員の選任

◆ 第３回理事会

日程：平成 27 年 6 月 24 日（水）　場所：航空会館（東京都港区）

内容：代表理事の選定、役付け理事の選定

◆ 第４回理事会〈書面決議〉

日程：平成 27 年 8 月 10 日（月）

内容：環境おもてなしプロジェクトロゴマーク（英字）の決定
　　平成 27 年度第 1 回臨時社員総会招集の決定

◆ 第５回理事会

日程：平成 27 年 9 月 2 日（水）　場所：ＫＫＲホテル東京（東京都千代田区）

内容：持続可能な社会づくり活動表彰事業実施の決定
　　持続可能な社会づくり活動表彰事業実施に伴う定款改正案の承認
　　内閣府への変更認定申請書類の承認等

◆ 臨時社員総会

日程：平成 27 年 9 月 2 日（水）　場所：ＫＫＲホテル東京（東京都千代田区）

内容：持続可能な社会づくり活動表彰事業実施に伴う定款改正の承認

◆ 第 6 回理事会〈書面決議〉

日程：平成 27 年 11 月 24 日（火）

内容：個人情報保護に関する基本方針の改定、就業規則の改正

◆ 第 7 回理事会

日程：平成 28 年 3 月 10 日（木）　場所：航空会館（東京都港区）

内容：平成 28 年度（第 22 期）事業計画・収支予算・資金調達及び設備投資の見込みに関する書類の承認

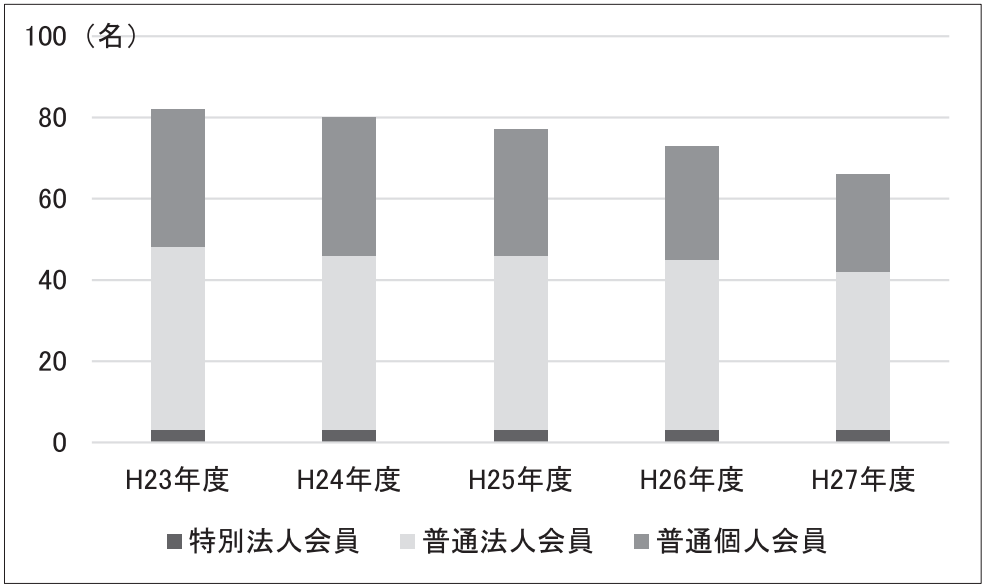
第 20 回環境文化講演会開催計画の決定

代表理事の職務執行状況報告等

２．会員数

平成 28 年 3 月期末の本機構会員数は 66 名であった。内訳は、特別法人会員 3 名、普通法人会員 39 名、普通個人会員 24 名である。

過去 5 年間の会員数の推移は、次のとおりである。



過去５年間の会員数推移

３．個人番号（マイナンバー）制度への対応

本機構は、平成 28 年 1 月 1 日のマイナンバー利用開始に対応するため、機構内規定整備、体制整備及び職員の研修受講等、特定個人情報の取り扱い及び安全管理に関する必要な措置を講じた。